

木曽川左岸臨海地域の水害に対する意識調査

名古屋工業大学 学生員 ○橋本健二 安田正樹, 羽鳥明満 正員 長尾正志

1. これまでの経緯と本研究の目的

濃尾臨海低平地の水害への意識調査として、昭和57年に名古屋市南部の中川区、港区以下名古屋市（略称）においてアンケート調査を実施し、種々の知見を得ている。今年は、海部郡の蟹江町、弥富町、飛島村、十四山村（以下海部郡と略称）においてアンケート調査を実施し、57年調査と比較して都市地域と農村地域の水害に対する住民意識および当地域内の特徴の違いを考察した結果を報告する。

2. アンケート対象地域

前述の4地域は図-1のとおりである。蟹江町では、図の斜線部の日光川と蟹江川に挟まれた地域を、弥富町では、弥富駅の周辺の地域を、十四山村、飛島村は、全村を対象として調査した。蟹江町、弥富町は、人口密度が比較的高く伊勢湾台風以後の転入者が半分近くを占める。飛島村、十四山村は、人口密度が低く、伊勢湾台風以前からの居住者が多数を占める。

3. アンケートの方法

表-1のように調査項目は10、全設問数は33であり、かつこの数字は各項目の設問数を表わす。配布は役場を通じて行い、回収は郵送とした。配布数は各地域約550全体で2384であり、回収率は全体で52%（蟹江町41%、弥富町49%、十四山村80%、飛島村42%）であった。

4. アンケートの集計結果

4.1 海部郡の特徴

a) 居住環境・特性 アンケート結果をスコア化して表-2に示す。年々、家族数、避難所要補助人数は、名古屋市とほぼ同じである。居住年数は、わずかに海部郡が長い。推定地盤高は海部郡がかなり低い、実際の地盤高も同様にかなり低いものと推定されている。なお、この地域の特徴として自宅あるいは木造、2階までの低層住宅が大半であった。

b) 避難先・避難時間・避難距離 避難先について、“わからない”の回答が名古屋市に比べやや多く、“指定避難所”の回答がかなり少ない。避難時間は、名古屋市とほぼ同じであり、海部郡各地区についてもほぼ同じであるが、避難距離は海部郡でかなり長い。各地区の距離は、飛島村810m、十四山村709m、蟹江町500m、弥富町503mであり、とくに飛島村、十四山村は名古屋市の約倍の距離となっている。

図-1 アンケート対象地域

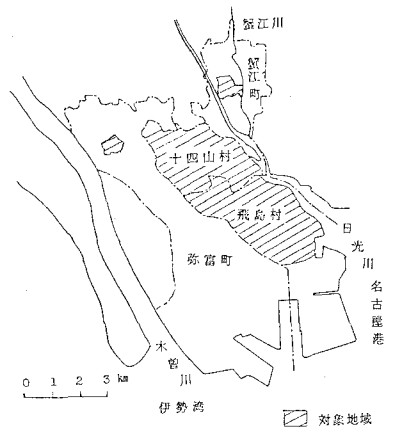


表-1 アンケート項目

A. 調査対象の特性 (5)
B. 居住環境 (6)
C. 水災害の被災経験 (4)
D. 水災害に対する安全性の評価 (5)
E. 水害観 (1)
F. 水災害への自衛策 (1)
G. 水災害時の避難活動 (7)
H. 地域の水災害問題 (2)
I. 水害軽減活動への参加意識 (2)
J. 自由意見

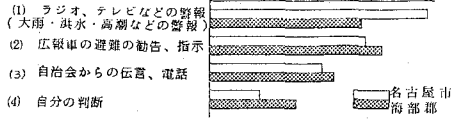
表-2 居住環境・特性

	名古屋市	海部郡
年 令 (才)	46.5	44.9
家 族 数 (人)	3.95	4.12
要補助人数 (人)	0.64	0.73
推定地盤高 (cm)	-10.2	-82.8
居住年数 (年)	16.3	19.8
避難時間 (分)	14.5	16.6
避難距離 (m)	385	627

(c) 避難開始の手掛り 図-2 のように海部郡では,

図-2 避難開始の手掛り

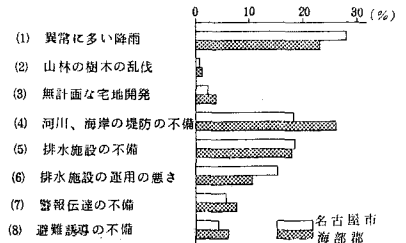
"広報車などの避難の勧告・指示", "自分の判断" の回答が多く, "ラジオ・テレビの警報" の回答が少ない。これは, 伊勢湾台風時の情報の乏しさと不備による被害拡大が, 強く潜在意識に残っていたためであろう。



d) 地域の水害推定原因 図-3 のように海部郡では, 名古屋市に比べ, "異常に多い降雨", "排水施設の運用の悪さ" の

図-3 地域の水害推定原因

回答が少なく, "河川・海岸の堤防の不備" の回答が多い。これは, 伊勢湾台風時の破堤に伴う甚大な被害と土地の低平さが影響しているのであろう。



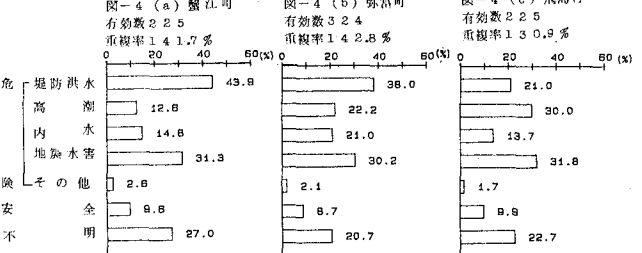
4.2 地域内の特徴

十四山村と飛島村は, 類似の傾向があるので飛島村についてのみ報告する。

a) 水害に対する自宅の安全性評価 図-4 のように, どの地区でも危険の回答が, 名古屋市と比較して多い。危険原因については, 高潮への危険意識が, 蟹江町・弥富町・飛島村の順に, 海に近づくにつれて, 高くなる。堤防決壊への危険意識が, 蟹江町で他地区に比べ高いのは, 調査地区が日光川と蟹江川に挟まれた環境からであろう。地震水害への危険意識が, どの地区でも3割

図-4 水害に対する自宅の安全性評価

強も占めるのは, 注目すべき住民意識である。内水への危険意識が, 弥富町で高いのは, 49年・57年と近年集中豪雨による浸水被害を経験しているからであろう。

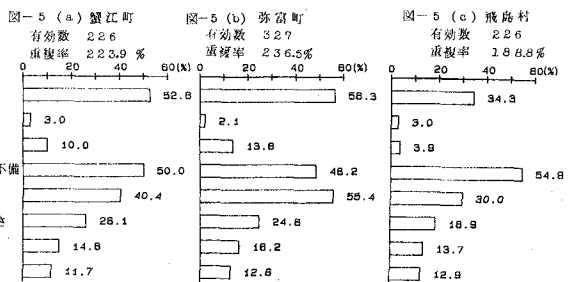


b) 地区ごとの地域の水害推定原因 図-5 のように, どの地区も "異常に多い降雨" と "河川・海岸の堤防の不備" の回答が多い。しかし, 内容的には違いがある。図-5 (a) のように蟹江町では

"異常に多い降雨" と "河川・海岸の堤防の不備" の回答がほぼ等しい。図-5 (b) のように弥富町では, "排水施設の不備" の回答がかなり多い。これは, 内水への危険意識が高いことと対応している。図-5 (c) のように飛島村では, "河川・海岸の堤防の不備" の回答が多い。

これは, 高潮への危険意識が高いことと対応している。

図-5 地区別の地域の水害推定原因



5. あとがき

都市型の名古屋市との対比では, 避難距離の長さや安全意識の低さなど, かなりの相違がある。また, 地域内でも, 弥富町の内水への不安, 飛島村の高潮災害への海岸堤防, 蟹江町の河川堤防からの洪水への懸念といったように, 住民はかなり現実の危険を的確に把握しているように感じられた。

なお, 本研究は自然災害特別研究(1), 細井正延教授代表の援助を受けたことを記しておく。